



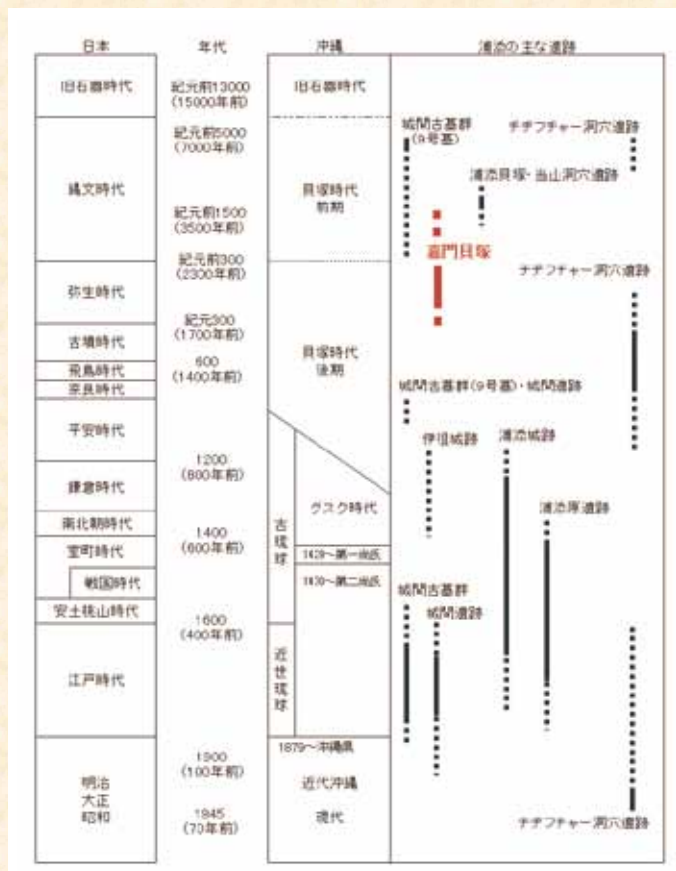
▲ 竪穴住居あと（約3500年前）



▲ 土器の出土状況（約2000年前）



▲ 地面に穴を掘って埋葬された大人の女性



▲ 交易用に集められ貯蔵されたイモガイ

うらそえの遺跡

か じょう かい づか  
嘉 門 貝 塚



▲ 発掘調査の様子（調査は昭和62・63年度に実施）

浦添市教育委員会

TEL 098-876-1234(内線6216・6217)

# 嘉門貝塚

浦添市の西海岸はかつて広大な砂浜とサンゴ礁しょうが広がる豊かな地域でした。嘉門貝塚はその西海岸にあって、人々が主に狩猟しゅりょうや漁労ぎょろうで暮らした沖縄貝塚時代の集落です。竪穴住居あとからは奄美諸島の土器(約3500年前)が見つかり、古くから海の彼方かなたの人々との交流がうかがえます。

弥生時代(約2300年前)になると九州の遺跡からは首長しゅちょうなどが身に着けた南島産の貝で作られた腕輪うでわが発見されます。一方、嘉門貝塚をはじめとする沖縄の遺跡からは九州の土器や蓄えられたゴホウラ、イモガイが見つかります。このことから九州と沖縄との間で貝をめぐる交易が行われていたことがわかります。



▲ 嘉門貝塚の位置と周辺の遺跡



▲ 九州の弥生土器 (上・左下)  
朝鮮半島の楽浪系土器 (右下)



◀ 当時の生活の様子 (想像図)



▲ イモガイと製作途中の貝製品 (腕輪など)



▲ 貝塚の様子

貝塚は大昔のゴミ捨て場のことです。貝塚には人々が食べた貝の殻からや動物、魚の骨などのほか、壊れて使えなくなった土器や石器のかけらなども捨てられています。

貝塚を発掘調査すると、何を食べて、どのような道具を使っていたのか知ることができ、当時の人々の暮らしが明らかになります。



▲ イノシシのアゴ骨あごこつ  
◀ ウミガメの肋骨板

